

勝田範彦 WRX、前戦の借りを返す今季初優勝



絶対の自信を持つ前戦唐津を落とした勝田範彦／石田裕一組。舗装2戦めとなる京都で今季初優勝を遂げた。

全

日本ラリー選手権は4月末、第2戦唐津に続く舗装の一戦、NISSIN RALLY丹後2018がシリーズ第3戦として開催された。

ホストタウンとなったのは京都府北部の京丹後市。このエリアに戻ってくるのは3年ぶり、以前に多くの観客で賑わった道の駅「丹後王国」でのギャラリーステージも復活した。今回のラリーは、「丹後縦貫林道リフレッシュ事業竣工記念」というサブタイトルが示すように、以前も使われた丹後半島の尾根伝いの林道をメインステージとする計12本、80.84kmのオールターマックのSSが用意された。

大きな注目を集めたのはヴィッツGRMNターボが全日本ラリーにデビューしたこと。ドライブするのは今年からTOYOTA GAZOO Racingチームに抜擢された眞貝知志選手と安藤裕一選手のコンビだ。前戦ドライブした

ヴィッツCVTから乗り換え、JN5クラスヘントリーとなった。そのJN5クラスは昨年の王者、小濱勇希選手も今季初参戦。チャンピオンマシン、シトロエンDS3でV2を狙う。

ラリーがスタートすると、やはり事前のテスト1回のみで本番に臨んだヴィッツGRMNターボは熟成途上とあって、そのスピードはチャンピオンを脅かすまでには至らず。レグ1は小濱／草加浩平組が眞貝組に1分近い大差で折り返す。明けたレグ2、この日だけのタイム比較では眞貝組が小濱組に12秒差にまで詰めるも、レグ1のビハインドは如何ともし難く、小濱組が率先のよい1勝を飾った。

「新しいライバル、新しいタイヤと昨日は正直、様子見ながらのスタートでしたが、星にセットを変えたらクルマが大きくよくなったので引き離せた感じがですね。でも今日もペースは落としてないです。落とすと却って危ないですから」

と小濱選手。

対する眞貝選手は、「GRMNターボは、前戦で乗ったヴィッツCVTと去年まで乗っていたアバルト500の印象を合体したところで走らせるんじゃないかというイメージがあって、それに昨日は結構、引きずられたんですが、今日はクルマなりに走らせるスムーズな運転に変えたらタイムが上がったんですよ。正直、ラリーの前は不安がありましたが、どう詰めていくかという方向性は分かりました」と手応えを感じた様子だった。

一方、最終SSまで息詰まる攻防を見せてくれたのがJN6クラス。昨年辺りから舗装でも一発の速さを見せるようになった鎌田卓麻／市野路組がレグ1序盤をリードするが、2ループめに入ると勝田範彦／石田裕一組が猛追、1.6秒差で首位に立って折り返す。レグ2でその差は一時、0.6秒まで詰まるが、2ループめで勝田組が再びリードを広げ、今季初優勝をもぎ取った。

「昨日のレグ1最後のSS6でベストを取ってDAYベストでしっかり上がったのが大きかったかな。あそこで負けたら、ずるずる負け続ける気がしたので気合入れ直したんですよ。でも今日も、昨日と同じ道でも逆走になったら難しくて。

JN6 / 1.昨年に続いて近畿ラウンド2連覇を狙った福永修／齊田美早子組だったが、3位に甘んじた。2.勝田組に最後まで食らいついた鎌田卓麻／市野路組が2位入賞。





JN5&JN4 / 3.9. レグ2で見事な逆転勝利を飾ったJN4山本悠太(9) / 北川紗衣組。4.JN4で2連勝を狙った山口清司 / 山本磨美組は逆転を許し、2位。5.6. 今季初登場となった小濱勇希 / 草加浩平組シトロエンDS3はレグ1から独走して快勝。7.JN5の3位にはブジョーを駆る横嶋良 / 木村祐介組が入賞。8.GRMNターボのデビュー戦を2位で終えた眞貝知志 / 安藤裕一組。10. 新型スイフトが西川真太郎 / 本橋貴司組によって初ボディウムを獲得。



JN3&JN2&JN1 / 11.17. JN1は舗装を得意とする小川剛(17) / 佐々木裕一組が今季初優勝。12.15.16. JN2では鈴木尚 / 鈴木裕組がライバル明治慎太郎 / 北田稔組(16.)をレグ1から圧倒してクラス移籍後初の優勝を飾った。13. JN3は残念ながら不成立となったが天野智之 / 井上裕紀子組が1位でフィニッシュ。14. JN1伊藤隆晃 / 大高徹也組が最後まで2位をキープ。18. JN1で3位入賞の三苦和義 / 遠藤彰組。19. JN2の2位には中部の長崎雅志 / 秋田典昭組が入賞。

特に2ループめはセンターデフのロック率を変えたりして結構、ナーバスに落とし所を探った感じですね。卓麻がホントに舗装が速くなったんで、グラベルでは今度はこっちが喰らい付いていかないと」と勝田選手。3戦めで手に入れた今季初勝利にも気持を入れ替えていた。「今までテストでは良くても本番ではダメということが続いたので、範さんと同じタイムで走れたのは自信になりますよね。それだけクルマが進化したということだと思います」と鎌田選手にも収穫の多い戦となったようだ。

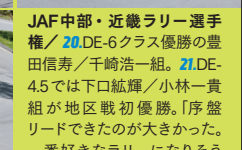
セレモニアルスタート&フィニッシュは京丹後市役所で行われた。



JN6クラス同様の接近戦となったのがJN4クラス。序盤から抜け出した山口清司 / 山本磨美組、山本悠太 / 北川紗衣組の2台の86がマッチレースを展開した。レグ1は「前戦唐津から車高を変えたのが良かった」という山口組が山本組に5秒差をつけて折り返したが、レグ2では山本組が最初の2本のSSでベストを連発して逆転、そのまま逃げ切った。

今季初優勝の山本選手は、「昨日はアンダーが強く踏み切れなかったのでセットを変えたのが当たりましたね。今日はスタート時間も割と遅かったので、気温が上がって最初からタイヤがグリップしてくれたことも助かりました。最初のSSの最初のコーナー曲がった時に「行ける」と思いました(笑)」

得意とするグラベルを前にあげたこの1勝が貴重な価値を持つかもしれない。なおこのクラスでは新型スイフトを持ち込んだ西川真太郎 / 本橋貴司組が3位に食い込む速さを見せている。



JAF中部・近畿ラリー選手権 / 20.DE-6クラス優勝の豊田信寿 / 千崎浩一組。21.DE-4.5では下口輝雄 / 小林一貴組が地区戦初優勝。「序盤リードできたのが大きかった。一番好きなラリーになりそうです(笑)」と下口選手。22.DE-3ではSタイヤを選択した西村好正 / 松井弘成組が快勝。23.HAは小西重幸 / 謝宗佑組が優勝。24. チャレンジは鈴木康敬 / 稲垣大旗組が優勝。